



ながつましポート

発行: 民主党板橋区議会議員団

編集: 中妻じょうた事務所

2013年12月号

学校施設の早期適正化を！—新入生の応募状況

11/15の文教児童委員会で、次年度の小中学校新入生の学校応募状況の報告がありました。学校選択制から「入学予定校変更希望制」に変わり学区外への流出は少し緩和されましたが、依然としていびつな希望状況です。

● 満員の学校、空き空きの学校… ●

板橋区の教育の最大の課題は「教育のハード・ソフト両面のインフラ整備」だと私は考えています。特に、学校施設という「教育の土台」をどう維持・整備していくか、非常に複雑な課題を抱えているのが現状です。

毎年この時期に発表される次期新入生の学校希望状況。今年は去年とは異なり、制度が「学校選択制」から「入学予定校変更希望制」に変わっています。前年度から引き続き隣接学区のみが選択可能になっているほか、居住学区外の学校を希望する場合には、学校変更理由を記入することが必須になりました。この制度変更の効果が出て、子どもの他学区への流出が若干緩和されました。

しかし、依然として区内各校の児童・生徒数は非常にいびつな状態にあります。児童数が最も多い小学校と最も少ない小学校で10倍以上の差があるのが現状ですが、入学制度の微調整でこれが解決するとはとても思えません。

表1は、今年度新たに抽選実施校になった学校の一覧です。平成24年度は13校だった「満員校(受入可能数<希望者数となった学校)」が、今年度は17校に増えてしまいました。

表1: 平成25年度で新たに抽選実施校になった学校

| | 受入可能数 | 希望者数 | 希望者数の内訳 | |
|------|-------|------|---------|-----|
| | | | 学区内 | 学区外 |
| 志村小 | 65 | 85 | 64 | 21 |
| 志村四小 | 98 | 115 | 115 | 0 |
| 蓮根二小 | 65 | 84 | 73 | 11 |
| 板橋六小 | 65 | 73 | 53 | 20 |
| 金沢小 | 98 | 108 | 93 | 15 |
| 中根橋小 | 65 | 81 | 41 | 40 |
| 下赤塚小 | 98 | 109 | 97 | 12 |

表2: 住民登録者の半数以上が他の学区を希望している学校(平成25年10月)

| | 受入可能数 | 希望者数 | 住民登録者数 | 他学区希望割合 | 学区内住民全入 |
|------|-------|------|--------|---------|---------|
| 板橋八小 | 65 | 18 | 43 | 60.5% | ◎ |
| 板橋九小 | 65 | 26 | 58 | 70.7% | ○ |
| 上板橋小 | 65 | 23 | 41 | 56.1% | ◎ |
| 中台中 | 130 | 102 | 194 | 53.1% | × |
| 向原中 | 130 | 33 | 77 | 62.3% | ◎ |

◎: 学区外の希望者を入れても住民全員入学が可能 ○: 学区外の希望者を除けば住民全員入学が可能
×: 住民だけで受入可能数を上回り、住民全員入学が不可

表2は、学区内に住民登録している児童・生徒の半数以上が他の学区を希望している学校の一覧です。なぜこうなっているかについては、実は隣接学区のほうが通学しやすいなど様々な理由があるのですが、この状態を放置しては深刻な問題が生じることになるのもう目に見えています。ただし中台中のように、当該学区の生徒全員が入学することがそもそも不可能な状態の学校もあり、話がややこしくなっています。

● 学区の見直し、改修予算確保…課題山積 ●

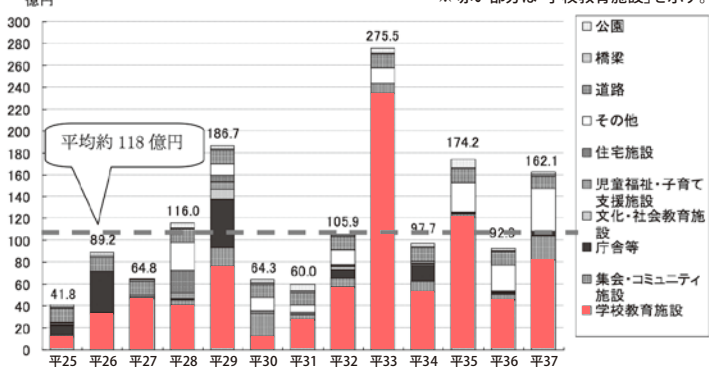
まずもって、学区の見直しは必須かつ喫緊でしょう。私も以前から統合型GISを用いた学区見直しを提言しています。

しかし、学区を見直すだけでは解決しません。なぜ「子どもの偏在」が起こっているかといえば、一方で少子高齢化が進む反面、他方では大型マンションが続々と建設されることにより新しい住民が局所的に増えているためです。学校を作りかえることによる適正化も想定しておかなければなりません、ここで財政難が大きいのしかかります。

図1は「公共施設等の整備に関するマスタープラン」に掲載されている「平成37年度までのLCC(修繕・改修・改築費用)算出結果」です。平均で年間約118億円、ピーク年度には約276億円もの費用がかかります。そしてその中で最も大きな割合を占めているのが、他ならぬ学校施設です。

限られた財源で最適な子どもの学びの環境を作るために、改修・改築の前倒しや小中一貫校化も視野に入れて、綿密な学校整備計画を立てなくてはなりません。そして、その計画に対する住民の理解を得るために、極力早期に広範な関係者を巻き込んで協議を開始するべきです。

図1: 平成37年度までのLCC算出結果
※ 赤い部分は「学校教育施設」を示す。



新あいキッズ、課題をひとつずつクリアすべし

放課後子ども事業「あいキッズ」の「一般登録」「学童登録」を統合する「新あいキッズ」。従来の学童登録・学童クラブを利用してきた保護者には不安も多いようです。課題を丁寧に洗い出しひとつずつクリアすることが重要です。

●まず「放課後の壁」を取っ払おう●

平成21年度にスタートした板橋区版放課後対策事業「あいキッズ」。徐々に定着しつつありましたが、ひとつ大きな問題がありました。それが「壁」です。

あいキッズには「一般登録」「学童登録」の2つがありますが、一般登録は文部科学省所管の「放課後子ども教室」、学童登録は厚生労働省所管の「放課後児童健全育成事業」です。大元をたどれば霞ヶ関にまで行き着く2つの異なる制度を、ひとつの学校の隣同士の部屋でこれまでやってきたわけです。

特に厚労省の放課後児童健全育成事業では「専用スペースの確保」が求められており、このために、一般登録の子どもと学童登録の子どもは、原則として交わらないようにしなければならぬ状態でした。私も保護者からの要望を受け、昨年の文教児童委員会では制度の一本化を求めてきました。

11/28現在、議会で条例案を検討している「新あいキッズ」は、文部科学省管轄、つまり教育委員会に所管が一本化されます。これによってまず「壁」が取り払われ、同じクラスの仲良しの友達が放課後になると別々の部屋に…という、子どもにとってはさみしい状態をなくすることができます。また施設面でも融通がきくようになり、ランチルームや多目的室なども学校の判断であいキッズに使えるようになります。

そして、すべてのあいキッズで19:00までの預かりに対応し、料金も安くなっています。



11月11日に、民主党議員団で大谷口小・徳丸小あいキッズを視察。多摩市議会の岩永久佳議員が熱心に質問していました。

●児童館、おやつ、要支援児…課題をひとつずつ●

しかし一部の保護者からは、新あいキッズに対する不安の声も聞かれます。確かに、個別の課題がいろいろ残っているのも事実です。児童館に小学生は行けるのか、おやつが17:00というのは納得できない、要支援児はちゃんと受け入れてもらえるのか…。課題はひとつひとつクリアしていくべきです。11/28からの一般質問とその答弁を踏まえて、よりよい新あいキッズのために提言を続けたいと思います。

大谷口小あいキッズの「居場所ボード」。「あいキッズルーム」と「学童ルーム」の間の壁がネットワークです。校庭も「壁」で線引きされています。



プロフィール



中妻 じょうた (なかつま じょうた)

- ・1971年8月15日／宮城県仙台市生まれ
- ・宮城教育大学附属小学校・中学校、宮城県仙台第三高校卒業
- ・早稲田大学第二文学部文芸専修卒業
- ・文芸サークルで小説執筆、バンドサークルでボーカル担当
- ・家庭用ゲーム制作、ITエンジニア、ITコンサルティングなどに従事

- ・衆議院議員 長妻昭事務所にて、ボランティアやアルバイトとして働く
- ・長妻昭未来創造塾 一期生
- ・2011年4月24日／板橋区議会議員選挙にて初当選
- ・趣味：中国武術、マラソン、ゲーム、読書など
- ・座右の銘：「一歩でも前へ」

【板橋区議会での役職】

- ・都市建設委員会 副委員長
- ・議会改革調査特別委員会 理事委員
- ・情報公開及び個人情報保護審議会 委員

【その他の役職】

- ・高島平カンフークラブ 代表
- ・板橋区武術太極拳連盟 理事

なかつまレポートお届けします!

なかつまレポートは毎月発行です。ご希望いただいた方には毎月郵送いたします。郵送をご希望される方は、下記の連絡先のどれでも結構ですので、住所、名前、電話番号、メールアドレスをお知らせください!

連絡先

- 中妻じょうた事務所
- 〒175-0082 板橋区高島平8-17-11-101
- TEL:050-3736-3339
- FAX:03-3935-5365
- E-mail:jouta@nakatsuma.jp
- HP:http://nakatsuma.jp
- Facebookページ:「中妻じょうた」で検索
- Twitter:@nakatsuma

皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。